

令和3年度 学校評価報告書

学校名	三田市立高平小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

「人とつながり よりよい自己をめざす 児童の育成」
 ～「やさしさ」と「ふるさと高平」を大切に～

2 今年度の学校重点目標

- 【学びいっぱい】 ・目標に向かって、粘り強く取り組む子
・意欲、興味、関心をもって進んで学習する子
- 【友だちいっぱい】 ・自分から進んで友だちと仲よくする子
・友だちと助け合い、支え合う子
・いじめをしない、させない、許さない子
- 【やさしさいっぱい】 ・誰にでも優しく、思いやりを持って行動する子
・気持ちよいあいさつができる子
・感謝の気持ちを表現できる子

3 総合的な自己評価

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、さまざまな教育活動が制限されるなか、学校は工夫を凝らして教育活動を行った。児童・保護者を対象に実施した学校アンケートでは、「先生たちの授業はわかりやすい」「学校は家庭・地域と連携して教育に取り組んでいる」「学校が楽しい」の項目では9割以上が肯定的な回答であった。これは新学習指導要領の基本的な理念である社会に開かれた教育課程に基づく教育活動を実践することができたのではないかと考えている。
 一方、自主学習、読書習慣等については課題がある。今後も学校、保護者、地域が一体となって学校教育目標の実現を目指して取り組んでいきたい。

4 総合的な学校関係者評価

新学習指導要領の趣旨にそった教育活動の充実に向けて、家庭・地域も、さらに学校と一体となって取り組んでいく必要がある。
 学校の内部評価での分析の通り、基本的な生活習慣の定着や人権意識の高揚、いじめの防止・早期発見などは、学校と地域・家庭が一体となり取り組んでいく必要がある。
 「地域に開かれた教育課程」の精神に基づき、地域としても、学校と共に子どもたちを育てるという意識を持ち、学校と地域との連携をさらに深め、協働して子どもたちが安心して過ごし、自分の力を伸ばすことができる学校づくりを支えていきたい。

5 評価結果

分野・領域	評価項目(取組内容)	自己評価		学校関係者評価
		評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程 学習指導	兵庫型教科担任制や少人数授業の実施により個に応じたきめ細かな指導を充実させ、基礎的基本的な学力の向上を図る。	・高学年の算数において少人数での学習を行った。少人数であるために、一人一人の習熟状況をとらえることができ、学習内容の定着のために、具体的な方策を考えることができた。 ・複数の教師で指導するということが定着し、児童を多面的に理解することができ、指導にいかすことができた。	・主体的・対話的で深い学びを実現するために、算数での研究の成果を活かして授業改善に取り組む。 ・「少人数」を生かした学習スタイルを模索し、学力の向上を図る。	・少人数の授業では教師の目が一人ひとりにゆきとどき、個々の理解に応じた指導ができています。今後も一人ひとりを大切にした授業を期待する。
	学習指導要領改訂の方向性を見通した教育課程の編成を行う。	・ALT や外国語サポーターと連携して外国語学習の充実に取り組むことができた。 ・道徳教育、キャリア教育、情報教育において、各教科との関連を意識した計画に基づき授業することができた。	・各教科、道徳、キャリア、情報等に関連付けたカリキュラムに沿って学習を進めながら、地域と連携して取り組む必要がある。	・学習指導要領の趣旨に沿って、地域も連携して教育活動に関わっていききたい。
	本校で歌い継がれている「やさしさの歌」の価値を児童と教員が共有し、歌そのものと共に、共生の価値観を引き継いでいこうとする心情を育成する。	・新型コロナウイルス対策により「やさしさの歌」を歌う機会が持てなかった。しかし、儀式や学校行事、学級活動の中で触れる機会を作ることができた。地域行事「たかひら夢花火」でも「やさしさの歌」を取り上げてくれた。	・新型コロナウイルス感染症が終息し、「やさしさの歌」を歌う際には、歌詞の意味を意識しながら歌うことが重要であり、必要であれば機会をとらえて歌詞の意味を考える必要がある。	・長年にわたって「やさしさの歌」が歌い継がれていることは非常に価値あることである。今後も継続してほしい。
生徒指導	いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向け、組織的に取り組む。	・生徒指導上の問題が発生した際には、保護者・関係機関と連携してチームとしての対応ができた。 ・学期に1回の「いじめアンケート」の実施、月一回の児童理解交流会を開催し日頃から児童の実態を探るよう心掛けた。	・児童が相談しやすい環境づくりの強化を図るため、年度初めに児童・保護者へ「いじめ対応チーム」等を周知していく。児童の自己有用感を高める取組を行う。	・いじめの防止・早期発見・早期対応に向けて、関係機関及び地域・保護者とも連携をとって進めていかなければならない。
	道徳教育・人権教育を充実させ、自分を大切にするとともに、他者を自分と同じように大切にできる「やさしさ」や「思いやり」に満ちた人間関係の育成を図る。	・誕生日の紹介や「優しさの木」の活動などを通して意識を高めてきた。 ・人権参観を実施するにあたり、事前に研修を行うことで、授業で扱う教材の価値や指導方法等を具体的に理解することができ、授業を行うことができた。	・本校が伝統的に学校経営の柱としている人権を大切にしている取組を今後とも継続していく。 ・これまで進めてきた人権教育の取組を踏襲するだけでなく、改善点がないかを常にチェックし、より良い取組を行う。	・様々な学習活動を通して、全ての児童が楽しく通えるような学校であってほしい。
研究・研修	児童の実態や身につけさせたい力を精査し、子どもを中心に据えた研究活動を推進する。	・校内研修を中心に本校の児童の長所や課題を、時間をかけて議論し、「思考力」と「表現力」「基礎学力」の向上を目指して研究を進めた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「人権教育」「情報教育」等必要な研修を実施することができた。	・全国学力・学習状況調査の分析結果から児童の実態を把握するとともに、校内研究を軸に日々の授業改善を図り、児童の学力を高めていきたい。 ・地域とも連携して課題解決に取り組みたい。	・基礎学力の向上とともに、子どもたちが主体的に学習に取り組めるような、授業が実践されることを期待する。 ・「寺子屋」等も活用して地域と連携して取り組んでほしい。

	新学習指導要領の改訂の趣旨についての理解を深め、指導方法の工夫・改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究(算数科)を通して、本校の児童の課題を明確にし、課題解決に向けた取組を進めることができた。 ・三観点で整理された学校評価については、保護者へ学期末懇談会等で資料を配布して説明した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための方策の有効性を授業実践の中で検証していく。 ・学力向上指導改善プランをもとに実践し、PDCAサイクルにより、より良いプランを作成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨に沿った学習を児童の実態に合わせて進めてほしい。
家庭・地域との連携	コミュニティスクールとして、保護者、地域、PTAや関係機関との連携を強化し、「ふるさと高平」とともに歩む学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターとの連携を充実させ、教員の負担軽減や教育活動の充実を図ることができた。 ・児童会が中心となりお世話になっている方々へ感謝を伝える手紙を作成して贈り、学校を支えていただいていることを再確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域に開かれた教育課程」を学校・保護者・地域で共有し、より良い教育活動を展開していく。 ・教員の負担軽減のみならず、教育活動の内容的な充実を目指した地域人材の活用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、教師、学校支援ボランティアの三者にとって、有益な活動であってほしい。 ・児童会が中心となって、感謝の手紙を計画・実施したことを大きく評価したい。
	普段の学校教育活動の公開やホームページの更新など、積極的に情報発信を行い、信頼される学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年通信等で、学校の取組や児童の様子を発信することができた。 ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オープンスクール等の機会に地域の方々に、学校の様子を直接見ていただくことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学級通信、ホームページを通して情報発信を積極的に行い、信頼される学校づくりに役立ってたい。 ・来年度はオープンスクール等の機会を活用し地域の方々に子どもたちの学校での様子を実際に見てもらい、学校への理解を深めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学級便り・ホームページ等によって、学校の取り組みや子どもたちの様子がよく伝わってくる。
特別支援教育	一人一人の教育的ニーズを把握し、きめ細かく適切な教育的支援を行うとともに、だれもが学びやすいユニバーサルデザイン及び個別最適化の教育活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターを中心として、各学級の支援に必要な児童を把握し、「個別の指導計画」を作成し具体的な支援の方法を共有した。 ・月に1回の「児童理解」により、支援が必要な児童の状況を共通理解し、全教員が同じ方向での指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月に1回の共通理解の場を計画的に持つことに加え、「サポートファイル」を有効活用し、個々の児童に有益な支援を行う。 ・専門機関との連携をより一層密にし、学校外の機関と協働し児童の支援にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する児童を含めた全ての児童一人一人が成長できるような支援が大切である。

6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
7 月	1学期間の取組の振り返り・方向性確認
10 月	上半期における取組の振り返りと課題修正・共通確認
2 月	校内評価分析と次年度に向けて

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	内 容
10 月 9 日(日)	運動会の観覧、学校運営協議会の趣旨説明・今後の計画
11 月 12 日(金)	音楽会 意見交換
3 月 22 日(火)	一年間の活動経過 学校評価(感染症拡大防止のため開催できず)

8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
5 月	学校便り(ホームページにも掲載)	日頃の児童たちの様子や学力向上指導改善プラン・学校評価の概括や保護者の声などを掲載。	無
3 月	学校ホームページに掲載	学校評価の結果に考察を加え、ホームページに掲載。	無